



巻頭言／労働力の制約が強まるなか、地域から最も頼りにされる社会資源めざし切磋琢磨を — 2

改元新時代へ赤ちゃん走る—子育て支援 — 3

京都3施設に「上位認証」 人材育成など高い評価 — 3

来年度新規採用者(高齢者部門)内定式 — 3

立腰で集中力、事故防止にも 立腰教育研究会に参加 — 4

介護を志してよかった! 映画に学ぶ人権研修会 — 5

多様な人材活用が共通認識 5法人合同研修会 — 5

先輩からのメッセージ(高齢者・保育) — 4~5

園児と触れ合う中学生の職場体験学習 きりん夜間愛育園 — 6

みなさんの傍らにあり続けたい—ライフ・ステージ 舞夢開設10周年 — 7

トピックス — 8

新たにハンドマッサージ・サービス「くつろぎタイム」にご利用者とコミュニケーション

吹田竜ヶ池ホーム(地域密着型デイサービスセンター)は、「くつろぎタイム」で新たに「ハンドマッサージ」を始めました。「ハンドケアセラピスト」の資格を持つスタッフが、予約制で専用のマッサージオイルで手と腕を15分~20分マッサージ。「腕だけじゃなくて、肩こりもよくなった」と好評です。マッサージを通してコミュニケーションを図り、ご利用者の思いをタイムリーに聞き取ることができるメリットもあります。



久富さんに市長から記念品 103歳、摂津市の男性最高齢者に



せつ桜苑にご入居されている久富伊三郎さんが103歳を迎えられ、摂津市内で男性の最高齢者になられたことから、森山一正摂津市長からご長寿お祝いの記念品を受けられました(10月4日)。「ご長寿おめでとうございます」の森山市長の言葉に、久富さんは緊張気味ながらもしっかりと頷かれ、ご家族と一緒にお祝いをされました。これからはますますお元気で!

馬、羊 etc... 移動動物園がやってきた!



認定こども園一津屋愛育園に、大阪府豊能郡から移動動物園(能勢農場こどもどうぶつえん事業部)がやってきました(11月19日)。トラックが園庭に入ると、子どもたちは「来たー!」と大歓声。いつも遊んでいる園庭に馬、豚、羊などの動物がずらり。間近に見る動物に、子どもたちはおそるおそる近づいて「かわいー!」と撫でる光景もみられました。地域の親子連れも来園され、子どもと動物の交流の一日となりました。

大阪府社協から優良施設表彰

平成30年度大阪府社会福祉大会が大阪国際交流センターで開かれ、認定こども園正雀愛育園が府社会福祉協議会の小西禎一会長から、社会福祉事業の向上に貢献した福祉事業施設(設立15年以上の優良施設経営)として表彰されました(11月30日)。

同園は昨年5月、開園40周年を迎えましたが、今後ともさらに教育内容の充実を図るなど「地域にあって良かった」と思ってもらえる園を目指す方針です。



【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【老人施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。



巻頭言



労働力の制約が強まるなか、地域から最も頼りにされる社会資源めざし切磋琢磨を

理事長 高岡 國士

皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと存じます。日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進に多大のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

団塊ジュニア世代の高齢化を見据えた対応が重要な時代へ

本年10月に予定される消費税率の引き上げによって、2025年を念頭に進められてきた社会保障税一体改革が完了することであり、ますますいわれる団塊の世代が全員75歳以上となる2025年に向けて高齢者人口が急速に増加した後、その人口増加は緩やかになります。今後、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据えた検討を進めることが重要であります。一方で減少に転じている生産年齢人口は、2025年以降さらに減少が加速する見込みです。社会保障の持続可能性を確保するための給付と負担の見直しにとどまらず、労働力の制約が強まる中で福祉サービスの確保に対応していく必要があります。

「人財」の育成・定着に主眼を置いた幹部職層の丁寧な取り組みを

成光苑は開設以来68年が経過し、保育部門、高齢部門、障がい部門と広範囲に事業活動を

展開するようになりました。法人の基本理念や経営方針をはじめ大切にしたい思いや求めるスタッフ像など、全スタッフへの理解と周知を図るためのツール(冊子)である「和顔愛語」は、事業計画策定時の指針であり、各部門の施設、事業所のスタッフが作成する計画の基礎になります。

「人財」確保の中、すべての成光苑スタッフが法人の基本理念・経営方針の趣旨をよく理解し、それぞれの職種職階において自分なりに咀嚼した個別具体的なひとつひとつの目標を達成できるように、新たな計画を立て着実に事業を実施してほしいと思います。

その目標達成のための計画の進行管理を直属の上司をはじめ、幹部職層が丁寧に行うことで育成・定着に主眼を置いた取り組みにつながっていくと考えます。このような職場環境を良くする取り組みは、法人としての人材確保のアピールポイントとして求職者の知るところとなり、ひいては新たな人材確保にもつながると期待しています。

各部門のストロングポイントを積極的にアピールしよう

昨年12月に開催した期中理事会・評議員会で上半期決算報告を実施しましたが、法人全体としての事業実績は概ね順調に推移してい

「みなさんの傍らに寄り続けたい」



ライフ・ステージ 舞夢が地域密着型介護老人福祉施設として舞鶴市桑飼地区に開設され10年を迎え、記念イベント「舞夢マイムまいむ」が昨秋、居住棟に隣接の屋外をメイン会場に開催されました(10月13日)。

ライフ・ステージ 舞夢が開設10周年

引コーナーなども設けられました。市内チアリーディングチーム「プリンセス&グロリアス」による組体操とチアリーディングが披露されフィナーレ。会場からは「楽しかったな」「感動したわ」といった言葉が聞かれ、施設開設10周年に花を添える記念イベントとなりました。



紅葉の万博公園で食もすすむ

若園公園には体調管理の困難な方も合流

障がい福祉サービスのココリス(生活介護)では年1回、外出活動を実施していますが、昨年は万博記念公園(吹田市、10月25日)にご利用者6名とスタッフ7名、若園公園(茨木市、10月26日)にご利用者4名、スタッフ6名が行ってきました。万博記念公園では、自然文化園の平和のバラ園を觀賞、紅葉盛んな公園を散策。昼食は持参した弁当を食べましたが、いつもは食が進まない方も秋晴れのもと完食されたようです。若園公園(バラ園)では、日頃サービス利用されている方とご家族(2名)も短い時間ながら親睦を兼ね、自宅から合流されました。この方は医療的ケアを欠かせず体調管理が難しいことから、屋外へ外出ができる時間やタイミングも読みにくいということです。ご家族から「調子が安定している時はココリスでご利用者のみなさんやスタッフの方と一緒に連れていきたい」ということで、ともに時間を過ごすことができました。

認知症支援の心をつなぐタスキリレー “ラン伴2018まいづる”に参加

ライフ・ステージ 舞夢

ライフ・ステージ 舞夢は『ラン伴(とも)2018まいづる』(ラン伴まいづる実行委員会/NPO法人認知症フレンドシップクラブ主催)に参加しました(10月21日)。



が北海道から沖縄県までタスキリレーするもので、今回“ラン伴のタスキ”が舞鶴市にもやってきました。

走者は舞鶴市内の「東舞鶴コース(14キロ)」「城南コース(7キロ)」「加佐コース(13キロ)」の3コースに分かれゴールの舞鶴市西市民プラザを目指します。同施設は計14名のスタッフとグループホームご利用者2名がランナーとして参加、加佐コースのスタート地点で、福知山市からのタスキリレー(30名)の中継地点としてタスキを引き継ぎ、近隣の舞鶴由良川大橋を元気に渡り「よう歩いたな～、ホイッ」と次の事業所のランナーにタスキを託しました。

沿道の地域のみなさんからの声援にも助けられ無事完走。『ラン伴』を見かけられたら、ぜひ、声援をお願いします。

大阪人間科学大学と連携深める

～地域に開かれた施設を目指し～ せつ桜苑・きりんデイサービスセンター

せつ桜苑ときりんデイサービスセンター(認知症対応型)は、大阪人間科学大学と交流を深め、施設見学や講義のゲストスピーカーとしてスタッフの派遣など連携活動が本格化、地域に開かれた施設として積極的な協力体制を展開しています。

きりんデイサービスセンターに社会福祉士を目指す学生10名が来所し、ご利用者と音楽療法を体験(9月10日)。ご利用者と学生が2人1組で手遊びや童謡に合わせ体を動かします。

せつ桜苑では、同大で介護福祉士と視能訓練士を目指す学生(80名)の授業にゲストスピーカーとして介護スタッフを派遣「車いすからの視線」をテーマに講演(9月28日)。車いすの方の視点が低くなると、バリアフリーでも移動しにくいことを説明。学生からは「車いすの方がいたら声をかけ手伝いたい」という感想も。

また、同施設に介護福祉士を目指す学生(24名)が来訪、桜苑デイサービスセンター、特別養護老人ホームそれぞれのご利用者とのコミュニケーション体験をしたほか(10月31日・写真)、同大キャリアセンター主催の介護福祉士国家資格(実務経験ルート)の取得方法説明会にも協力参加しました。

大阪弁で「さいなら～」 下校の生徒さんに“あいさつ運動”

高槻けやきの郷認知症対応型デイサービスセンター

高槻けやきの郷認知症対応型デイサービスセンターでは昨年4月から毎週水曜日、近隣の高槻市立竹之内小学校の校門付近で、ご利用者(2～4名)と介護スタッフが、下校し帰宅する生徒さんに「さいなら～!(大阪弁)」と呼びかける「あいさつ運動」を始めました。当初はご利用者も児童も戸惑いや照れ臭さがあったようですが、回数を重ねるうち「今日はあいさつに行くやな」と時計を見ながらご利用者、児童らも「けやき(事業所名)の人やろ?」と気さくに声をかけてくれるようになりました。

日常的な簡単な言葉のコミュニケーションですが、認知症という病気があるご利用者にとっては「人や地域と関わり」「自分の存在を実感できる」などの喜びがあり、社会参加の機会を広げることに繋がっています。微笑ましい世代間交流も介護スタッフの仕事のやりがいです。

指定緊急避難場所へ走れ!

認定こども園正雀愛育園

認定こども園正雀愛育園は摂津市立味舌小学校の協力で、地震による津波発生を想定した全園児避難訓練を実施しました(11月14日)。同小学校は指定緊急避難場所になっています。

乳児(0~1歳児)は、バギー(ベビーカー)と保育スタッフに背負われ、幼児(2~5歳児)は、保育スタッフと一緒に小走りで小学校へ向かいました。子どもたちはいつもの園内避難訓練と雰囲気が違うことを察して緊張した表情で必死に走る姿が見られ、小学校には15分9秒で到着。校舎の玄関で5年生の生徒さんが迎え、手を繋いで校舎南館3Fまで一気に駆け上がり、避難完了に園児にも笑顔が戻りました。校長先生からは、しっかり避難(訓練)できたことを褒めていただきました。

これからも地域と連携を図り、非常災害時に備え迅速な対応ができるよう訓練を重ねたいと考えています。



サッカーの旗争いカップフレンドリーマッチ

ナイスゴール! お見事!

8ブロック中4ブロックで優勝 愛育園グループ3ヶ園

愛育園グループ摂津市内3ヶ園(千里丘愛育園、認定こども園一津屋愛育園、認定こども園正雀愛育園)は、摂津市青少年運動広場で行われたサッカーの第11回摂津カップフレンドリーマッチ(摂津市保育連盟主催)で大活躍。摂津市内保育所、認定こども園14ヶ園、46チームが8ブロック(A~H)に分かれリーグ戦を行い、各ブロックの優勝を競いますが、愛育園3ヶ園は4ブロックで優勝を果たすめざましい成績をあげました(11月15日)。

千里丘愛育園6チーム編成(A~F)。試合を重ねるごとに練習成果が発揮され、Cチーム(Bブロック)とEチーム(Dブロック)が見事に優勝、トロフィーと賞状を授与(写真)。試合の合間に「シュート!」「ガンバレ!」と同園他チームの仲間を応援する余裕も。

認定こども園一津屋愛育園3チーム編成(A~C)。練習時から「絶対優勝する!」と気合が入る。試合中も元気に声をかけ合い力を合わせ、Aチーム(Aブロック)が優勝。目標を達成し自信に繋がったようです。

認定こども園正雀愛育園4チーム編成(A~D)。この数年、優勝から遠ざかっていただけに意気込み十分。日頃の練習が実を結びCチーム(Eブロック)が優勝。チームだけでなくクラス全員で勝ち取った最高の結果です。



サンマのにおいに食欲もモリモリ

地域の方も参加し恒例の「ふれ愛っこまつり」

くみ愛育園では、地域のみなさんも参加される恒例の「くみふれ愛っこまつり」を開き、模擬店やゲームコーナーを楽しみました(12月1日)。

今回の目玉となったのは新鮮なサンマの炭焼きと園庭の落ち葉を集めた焚火で焼くホクホクの焼き芋です。園庭でサンマをあぶる匂いや白く煙る光景に、園児も保護者も地域のみなさんも興味津々。写真に撮っておこうとカメラ片手に焼き上がりが待ち遠しい様子。「おいしい!おかわり!」、普段はあまり食べないという子どもの元気な声にお母さんもビックリ。「今度は家で魚を焼いてみます」と親子で食べながら会話も弾みました。



園児とふれあい着脱・排泄の世話も

きりん夜間愛育園

きりん夜間愛育園では茨木市立西陵中学校と吹田市立山田中学校の生徒さんを迎え職場体験学習を実施しました。来園したのは西陵中(10月25、26日)から4名、山田中(11月8、9日)から5名、計9人。仕事の現場を体験し「働くこと」「生きること」の大切さを学んでもらうのが目的です。

中学生のみなさんは園児と一緒に遊んだり、ごはんを食べたり。小さい子には着脱や排泄の世話も。園児たちは優しいお兄ちゃん、お姉ちゃんにすっかり安心しきった様子。

中学生たちは園児への「いとおしさ」を感じる一方、子どもと関わる難しさも実感したようです。卒園児でもある中学生の一人から「私の小さい頃は先生にオムツ換えや食事の躰をしてもらったことが今になってよくわかりました」などの感想が寄せられました。

ドラムなど迫力満点の生演奏に大興奮

地域の保育園まつりに参加 東生野愛育園5歳児

東生野愛育園の5歳児29名が大阪市立生野スポーツセンターで行われた第35回保育園まつり(大阪市私立保育連盟生野ブロック主催)に参加、生野区・天王寺区の年長クラス中心に約700名が集まりました。

プロ演奏家の室内楽団ソリソテンドライエックによる『こどもの音楽会』ではサクソ、トロンボーン、ドラムセットの迫力ある生演奏に園児らは大興奮。「道化師のギャロップ」「天国と地獄」など運動会で馴染みの曲が演奏され「この歌聞いたことあるー!」と歓声が上がりました。最後は「夢をかなえてドラえもん」をみんなで合唱、お土産に「あそんでクロ」のマスコットをもらいました。

千里丘愛育園幼児クラス

しっかりご飯を食べようね

千里丘愛育園は近隣のファストフードチェーン店のマスコット「ドナルド(マクドナルド)君」を招き、幼児クラス(133名)を対象に「食育と環境」について学びました(11月26日)。

「ドナルド君や!」園児たちはテレビCMでもお馴染みの登場に大喜び。ドナルド君はパネル絵やクイズを交え食育指導。「いただきます」の由来や食への感謝について説明「みんな、しっかりご飯を食べようね」の呼びかけに「ハイ!」と元気よく返事ができました。地球温暖化の防止や冷蔵庫、水道の蛇口など園児にも身近な例をあげ無駄がないよう使う環境指導も。

その日の給食では手を合わせ、感謝の気持ちを込め「いただきます」、手洗い後には「蛇口、キュッ!」と水を止め、ドナルド君からの教えをしっかり守る光景もみられました。



成光苑ブランドに誇りを 3施設に京都府から「上位認証」

働きがいや 人材育成に高い評価

成光苑高齢者部門(対象施設・岩戸ホーム、サンヒルズ紫豊館、ライフステージ 舞夢)に対する「きょうと福祉人材育成認定制度」の平成30年度上位認証式が御所西京都ガールズパレス(祇園)で行われ、成光苑から高岡岡土理事長が出席、京都府健康福祉部長松村淳子氏から「上位認証(書)」が授与されました(11月26日)。同制度は京都府が25年に全国で初めて創

設、働きがいと働きやすさに配慮した人材育成や職場への定着支援を積極的に進める福祉事業所を認証公表、府内の福祉事業所の質的向上を図るのが目的です。同認証制度は現在276事業所(法人・企業)が「認証」されていますが、今回「上位認証」を受けたのは成光苑を含む4事業所計11事業所。「上位認証」は「離職率」「有給休暇消化率」「資格保有率」など「認証」より高度な基準を満たすことが必須



「京都府を代表する福祉法人」成光苑ブランドに誇りを持ち、今後もケアの質の向上、働きやすい職場づくりに継続的に取り組むたいと考えています。

地域の親子も参加し子育て支援運動会 認定こども園一津屋愛育園では昨秋「ミニミニ運動会」(10月16日)と「赤ちゃん運動会」(同月19日)を開催し、多くの地域の親子が参加されました。子育て支援事業の環です。

改元新時代へ赤ちゃん走る! 運動会(赤ちゃん組)は、ひよこ組(0歳児3名)と地域の乳と地域の子育て支援活動を実地に見学

子育て支援の一層の充実に生かす

愛育園の支援活動を実地に見学

成光苑では保育部門(愛育園)全園に子育て支援の担当者や大阪府知事認定のスマイルサポーターを配置、園児の保護者だけでなく、地域で子育て中の保護者や家庭の支援を継続的に行っています。

地域子育て支援担当者は年間4回程度集まり「絵本通信(子育てに関する情報)」を発行するなど地域の親子を対象とした各園の取り組みについて情報交換を行っていますが、今年度から姉妹園の子育て支援活動の見学会を実施しました。見学から得た情報をもとに、愛育園の子育て支援のさらなる充実に努めるため、第二愛育園の「ハッピーマタニティ」(10月18日)に2名、認定こども園一津屋愛育園の「赤ちゃん運動会」(10月19日)には4名が参加。また、子育て支援対策会議(10月4日)では、わらべうたベビーマッサージの実演を見学しました。

初めての試みですが、家族や地域の中で子育ての知恵や経験を共有することが難しい時代、今後も地域子育て支援対策委員として、このような機会を計画し、子育てに負担を感じている保護者への支援に生かしたいと考えています。

ベトナム人留学生のアルバイト4名に

吹田電ヶ池ホーム

在籍留学生のビジョンは日本語を学び、卒業後は介護福祉士養成校へ進学、介護福祉士国家試験を目指す、合格後は日本の高齢者施設で10年以上働きたいと明確です。現在、日本語学校に通うかわり、アルバイト先の高齢者施設でご利用者や介護スタッフと積極的に関わり、日本語でのコミュニケーションも予想以上の速度で上達。スタッフも一丸として留学生を支え、地域を支えていきたいと思います。



高岡理事長が激励

来年度新規採用者(高齢者部門)内定式

成光苑高齢者部門の31年度新規採用者6名(うち欠席1名、高校生のため)の内定式が愛育会館で行なわれ、高岡岡土理事長は「時代の変化とともに福祉の役割は大きく変わる。変化を恐れず一緒に頑張る」と内定者を激励されました(12月9日)。法人事務局長・施設長のあいさつに続き、先輩スタッフから「入社、年目は慣れない環境で不安も多いと思いますが、確実に心掛けてほしい。私たち(先輩スタッフ)があなた方の成長を見守っているので安心して」とエールが送られました。内定者は、私の気分転換は〇〇です。で「PR」。映画を観る「放課後に友だちと国家試験勉強」「友だちとおしゃべりすること」など自己紹介。成光苑のスタッフとして活躍が期待されます。



「変化を恐れず一緒に頑張ろう」

毎朝の体育活動で脳内活性化

～きりん夜間愛育園の日常保育を見学～



きりん夜間愛育園の公開保育が開かれ、愛育園8ヶ園の保育スタッフ24名が参加しました(11月20日)。公開保育は愛育園グループがお互いの日常活動の取り組みや保育環境の相互見学を通じ「振り返り」や「気づき」を学び、保育の質を高めるのがねらいです。公開保育の冒頭、成光苑の高岡園士理事長から「目的とねらいを持って保育活動に取り組み重要性」の指摘があったあと、同愛育園が毎朝の脳内活動として取り組んでいる体育活動が紹介され、0歳児から5歳児の園児全員が元気よく体操や体育遊びをする姿を見学しました。

異年齢で行う「お店屋さんごっこ」では、子どもたちが「売る人」「買う人」になり、年長児は小さい子の手を引いてお買い物。交わす会話を優しく思いやりで「ほっこり」

参加スタッフからは「体育活動は自園でも取り組みたい」「今から開店」といって閉店」といった言葉を組み込み売り上げにつながったこと、子どもが自由に作ったものがパン屋さんなどに並び工夫されている。参考になった」との声が聞かれました。

「造形」の実践について学ぶ



◆3法人合同研修に愛育園から32名◆

社会福祉法人の白鳩会(東大阪市)、クムレ(岡山県)、成光苑の3法人合同研修が幼保連携型認定こども園白鳩チルドレンセンター南丘(豊中市)で行われ、成光苑(保育部門)から32名が参加しました(11月10日)。

同チルドレンセンター南丘の2階建て園舎内に飾られた子どもたちの絵画や製作物を見学のあと、午後からの事例発表では、白鳩会から保育者全般に苦手意識が強いとされる「造形」について紹介されました。グループワークでは模造紙にそれぞれ意見を書き出し、全体でディスカッション。成功例だけでなく「導人がうまくいかなかった」「ケースも。例えば、たこ焼を造形として制作の際、形や色、臭い、触感など五感に訴えることが必要、また、ある程度材料が揃っていないといけないなど」「保育者の動きにも問題」があり、子どもにも造形に興味を持たせるには保育者自身が興味、関心を持つことが大事」といった指摘があり、次に向けてのヒントを教えられました。

立腰で集中力 事故防止にもつながる

立腰教育研究会

成光苑保育部門では、当法人と同じく立腰教育を保育に導入されている社会福祉法人白鳩会あやの台チルドレンセンター(和歌山県橋本市)の見学会と立腰教育研究会(NPO法人)の土台作り主催)に7名が参加しました(10月24日)。

立腰教育研究会では、杉本哲也氏(一般社団法人実践人の家理事)が「二人前の土台を育てる立腰教育」をテーマに特別講演し「立腰で集中力をキープすることが事故防止につながる」などと立腰の効果を目指し、NPO法人の土台作り理事長の石橋富知子氏は立腰教育の提唱者、森信三氏との出会いから立腰の実践に触れ、子どもへの指導について「挨拶すること、腰骨を立てること、変わらない物を変えてはならないこと」の3原則をあげられました。

介護の仕事を目指してよかった!

映画「ケアニン～あなたでよかった～」鑑賞 その人らしい生活支援の重要性に理解深める

京都エリア3施設 人権研修会



成光苑高齢者部門(京都エリア=岩戸ホーム、サンヒルズ紫豊館、ライフ・ステージ 舞夢)では、岩戸ホームずらんホールで全職種対象の人権研修映画会にスタッフが参加、映画「ケアニン～あなたでよかった～」(文部科学省特別選定作品、厚生労働省推薦)の鑑賞を通し、その人らしい生活への支援と個別援助の重要性、人権について理解を深めました(12月3日)。ケアニンとはケアする人。

映画は、頑固一徹で扱いづらいが、若い介護福祉士を口説くおじいちゃん、「着飾り散歩」という名の“徘徊”するおばあちゃん…それぞれの認知症高齢者のペースに合わせケアする介護福祉士の姿が描かれます。

「介護の仕事」もきれいごとだけではない、戸惑いや悲しみがあります。介護する方もされる方もともに人間。その人間と向き合えば誰でも立派なケアニンということが理解できる内容。「その人らしい生活を支え

たい。私もそうになったら支えてほしい」という気持ちも湧いてきます。

スタッフからは「モチベーションが上がった」「あらためて仕事のやりがいを感じた」とポジティブな感想や「介護の仕事を目指した初心に立ち返れた」といった声も聞かれました。

施設長・幹部職員研修会で高岡理事長

成光苑高齢者部門では高岡園士理事長はじめ各施設長、法人本部、次世代を担う幹部層スタッフ計26名が参加し「平成30年度 施設長・幹部職員研修」がグランドエクス鳥羽(三重県)で開催されました(10月3、4日)。

高岡理事長は冒頭、「組織の理念方針を改めて共有し、福祉環境の変化にも柔軟に対応しつつ、さらなる経営能力を高めること。また、地域の共生社会を構築すべく、社会福祉法人の中核的役割や新たな公益性(地域公益活動)に取り組むことなど一丸となって頑張ってもらいたい」とこの研修の意義と今後の方向性を示されました。

成光苑の新たな活動や課題への取り組みについて3年前からプロジェクト化している『経営品質向上活動』から報告があり、人事考課制度で使用する「チャレンジシート(係長級以下)」のリニューアル後の分析結果を踏まえた見直しでは「ワールド・カフェ方式」を用いた各グループで課題を抽出、考課者に対する指導やアドバイスの必要性などが全体で議論されました。

「部下にも育成の視点を丁寧に説明し考えを共有したい」と課題への対応に前向きな意見が次世代を担う幹部層スタッフから聞かれました。



「地域の共生社会構築を」と方向性示す

青山里会、こうほうえん、クムレ、大阪自強館、成光苑の社会福祉法人がそれぞれの取り組み紹介や交流を深める5法人合同研修会がTKPガーデンシティPREMIUM(名古屋市中)で開かれ、成光苑から高岡園士理事長はじめ21名が参加しました(11月29、30日)。今回は33回目、幹事法人は青山里会。

(多様な人材活用) ダイバーシティ化が共通の認識

「人材確保」をメインテーマに5法人合同研修会

るん、中高年層や障がい者の雇用、地域住民やボランティアなど社会資源をフルに活用されています。なかでも高齢者が介護分野にチャレンジする「ケアサポーター」の活躍が動画で紹介され参考になりました。

職員定着では、介護現場のICT化や介護ロボットの導入など働きやすい職場づくりにも各法人の特色がみられました。今後、介護の現場のダイバーシティ化(多様な人材の活用)は避けられないとの考えは参加した法人の共通した認識となりました。

今回の研修は成光苑が幹事法人となり5月16、17の両日開催予定。

オールジャパンケアコンテスト



吹田竜ヶ池ホームの大柴さん

第9回オールジャパンケアコンテスト(10月13日、主催：社会福祉法人こうほうえん)が鳥取米子コンベンションセンターで開催され、成光苑高齢者施設から参加の大柴弘之さん(吹田竜ヶ池ホーム)が「認知症部門」(B部門)で奨励賞に入賞しました。同コンテストには全国から介護職、看護職、セラピストなど112名が参加、6分野(認知症、食事、入浴、排泄、看取り、口腔ケア)で、経験(A部門…実務5年以上、B部門…実務5年未満)に応じ事前課題提出とケアの実技を競うものです。

奨励賞の大柴さんは「プレッシャーの方が半端なく大きかったが、これまでのご利用者との接し方を信じ精一杯頑張ろうと奮い立たせました。応援してくれた施設のスタッフにも感謝」と喜びを語っています。

同コンテストは介護の知識・技術を競うだけでなく、同じ仕事に従事している全国の仲間と交流する貴重な機会にもなっています。

認知症部門で奨励賞